

情報通信審議会 情報通信技術分科会
技術戦略委員会 社会実装加速化WG（第5回）

議事概要

第1 開催日時及び場所

令和7年3月12日（水）15時00分～15時50分

於、Web会議による開催

第2 出席した構成員（敬称略）

平田 貞代（主任）、上原 哲太郎、榮藤 稔、立本 博文、富田 章久、盛合 志帆

第3 出席した関係職員

（1）総務省

近藤 玲子（官房審議官）

大野 誠司（技術政策課革新の情報通信技術開発推進室長）

内田 雄一郎（技術政策課企画官）

平野 裕基（技術政策課課長補佐）

第4 議題

（1）第54回技術戦略委員会における主なご意見と対応方針について

（2）報告書（案）について

（3）自由討議

第5 議題

- (1) 第5 4回技術戦略委員会における主なご意見と対応方針について事務局から資料5－1及び資料5－2に基づき説明があった。
- (2) 報告書（案）について、資料5－2及び参考資料5－1に基づき説明があった。
- (3) 自由討議
 - 戦略的に推進すべき領域として、サイバーセキュリティを今後も支えていただきたい。NICTのデータと研究所の存在を活用し、産業につながる活動を期待。
 - NICTにおける人材の確保・定着が難しくなっている印象を受ける。優れた人材を配置することができるような人事制度の在り方を考えていただきたい。
 - ファンディング機能に関して、ベンチャーが予算を獲得しづらい点や、予算関係の規定が他の国研と異なる点を改善いただきたい。
 - NICTが研究開発に取り組むにあたっては、標準化動向と連動した明確な技術展開の計画が必要。コミュニティをつくるだけではコミットメントが足りないため、当該技術分野における標準化のロードマップをおさえて研究開発に取り組んでいただきたい。
 - サイバーセキュリティについて、現在大きな脅威となっているダークAIへの対応が重要。ペイロードを見る必要があり、境界型のセキュリティだけでは対応できない。
 - ファンディングエージェンシーとなったNICTの役割を強調するために、「プロモーター」や「コンサルティングエージェンシー」といった言葉を用いて、国の研究開発の方向性を立案する役割や、中立な研究機関としての立場を強調してもよいのではないか。
 - イノベーションハブについて、国の研究機関として、グローバルな仲間づくりの強化を期待。ボーダーレスで様々な研究機関と繋がり、グローバルな人材交流を実施することで、グローバルな研究開発の動きの中に楔を打ち込んでおくことが重要。
 - 総務省とNICTにおける標準化と知的財産に係る活動が、他省庁の手本となることを期待。国際標準に対してアンテナを張り、かつ予算も使って活動する点は、他分野の活動においても参考になる。国際標準化の経済的な重要性が増してきている中、NICTが手本となり、他分野の体制も強化されると良い。
 - 通信やAIの分野で民間のニーズがある人材の育成を支援する場を提供できると良

い。テストベッドの提供やスタートアップ支援のような間接的な取組みもないと、我が国のこの分野における地盤沈下が非常に懸念されるため、NICTには産業政策の拠点としての役割が非常に期待される。外部からも見える形で活動していただきたい。

- NICTは国立の研究機関として公平性・中立性があり、中長期的な視点で研究開発と資金提供の二つの役割を果たせる点が特徴。単なる資金配分ではなく、産業政策全体を見据えた資金配分が可能である。基礎研究から社会実装までカバーし、大学や企業と異なる特色をこれからも活かしていただきたい。
- NICTは、産学官の結節点として、限られたリソースをうまく回すハブの役割ができると非常に良い。クロスアポイントメントなどを活用し、人材交流を促進することや、ベンチャーキャピタルも含めて連携し、資金を回していけると良い。
- 社会実装に関わる課題をブレイクダウンしてプロジェクトを組成し、委託研究に持っていけるような、戦略的な役割を果たせる人材が重要。
- 知財・標準化・テストベッド運用などを支える高度な専門性をもったサポート人材の育成も不可欠である。また、今後、報告書で示された方針をどのように具体化し、実行に移していくかの検討が極めて重要。

以上